日

を大切に生きる、

それ

が明る

未来

歩に

合

気付け

る事もあるはずです。

今出来る事を一

ら見落として

いた大切な存在、

自分の

周りにある幸

 $\sigma$ 

)自分自身、

足下を落ち着いて

見返す

べきだと。

なると

願

っています

## 第13号 令和4年盛夏 発 行 真龍山大雄寺

北見市留辺蘂町宮下町 109 TEL 0157-42-2418 FAX 0157-42-2748

# 住 職 挨 拶

になり 年目となり、 お盆 0  $\bigcirc$ 更なる衝撃を与えました。 ロシアによるウクライナ 0 時期となりま あります。 コ 口 ナ 収束 関 した。 連 かっこ 今年でコ 0 微 かな ース 0 社会情勢 b 軍事侵攻が 希望が見えてきた 口 聞き慣れ ナ

一禍での

和

年

た日

には

影響を受け、

物

価やエネル

ギー

0

高騰

新たな問

を受け

 $\mathcal{O}$ 

大雄寺

んでいきたいと思います。

0

不安定な

を起こり、

生まれ、

誰もが不安を抱えています。

私たち あるのではないでしょうか [分の事ばかりを考えてしまう、 このような状況に何も出来な  $\mathcal{O}$ 相 そして戦争や自然災害の 手の 心身は間違 普段はもっと他人の事を思いやれる人で 心情に寄り いなく疲弊しています。 添うも そんな経験は誰しもが 情報が長期間に 無力感や未来に対す 「共感疲労」 心に を起こ 渡 った



きが見えない不安に駆られると、

禅の教えに

「却下照顧」

という

言葉があります。

て今現在が疎かになってしまう。

けれどその様な時こそ

つい先の事だけを考え

葬儀の様子

## 世 寺 族 観 院 玉 米 室 田 妙 幸 幸 子 禅 葬 尼儀

改めてお礼申し上げます。 が逝去致しました。 本堂前の 総ぎ精進して 0 七月二十 護持に全てを懸けた生涯でした。 世 焼香のご案内となりま 玉秀和尚の寺族として歩んだ約 いく事 四 月 まだコ が、 初代住 一世寺 口 番 ナ 族 職  $\overline{\mathcal{O}}$ 禍の状況下で、 一雄和尚 たが、 報恩供養として励 米 田 奉子 0 その 長女とし 焼 (行 香 世 皆様 思 百

www.www.www

# 令和4年度 大雄寺行事予定

8月16日

■盂蘭盆施食会 新亡施食会一般施食会

午前11時より

9月23日(秋分の日)

■ 秋 彼 岸 会 午後1時より

10月17日

- 二世寺族一周忌 午前11時より 成 道 会
- ■成

1月17日

大般若祈祷会 午前11時より

3月21日(春分の日) -

■ 春 彼 岸 会 午後1時より 北見市留辺蘂の堀貞夫さん(82) は水墨画を始めて10年以上。いろ いろな作品に触れながら自分らしい画風を模索してきた。「水墨画を

水墨画始めて10年以上…昨年、大作仕上げ寄贈 これからも楽し みたい」と話す。描きたいと思うモチーフを探し続けたい

水墨画愛好会 のメンバー。体調不良で思うように描けない時期もあったが、 昨年1月には「これまでで一番 の大作」という作品を仕上げ、 留辺蘂の大雄寺に寄贈した。緋 色の袈裟(けさ)をまとった住 職の米田憲人さん(写真右)と、 寺の山号にちなんが顔をモチー 職の米田憲人さん(写真右)と、 寺の山号にちなんだ龍をモチーフにした縦160撃、横100撃の作品。荒々しい龍と穏やかな龍の間に住職が佇む構図で、筆のかすれや、にじみを生かして「住職が何事も丸く収めてくれる様子を表現しました」。半月の制作 期間中、筆が進まない時もあり 完成した時は「達成感が大きか

水墨画愛好会

った」と振り返る。 堀さんにとって水墨画は「表 現の追求を重ねることで夢中に なれる素晴らしい趣味。描きた いと思うモチーフを探し続けた い」と話している。



留辺蘂 堀 貞夫さん (82)

4月15日 経済の伝書鳩掲載

四 世 住 職 肖 像 画

貞 夫 (旭公園)

堀

S

心

のたすき~

# ◇オブジェ「風化する記憶21」

髙 田 由美子 (北見市)



# ◇釈迦三尊仏掛軸 慈屋文昌信女霊位 菩提 田 夫 (上 町



えてくれて感謝あるのみです

して、

父 の 思 V を 鴻

という戒名は、

先祖からの思いを守り抜き、次世代に受

け継がれてゆく為の厳かな人生を歩んできたという意味

です。また子供の頃から字を書くことが好きだった父は、

じた際には、父の思いをしっかりと受け止め、果たす事

が出来たものと安堵と感謝の気持ちでいっぱいです。

ご住職から生前、授与された「大鴻院顕楞義堂居士」

ないという事でした。昨年、

七十四間継続した会社を閉

決して周りに迷惑を掛け

経営者としての父の心情は、

上 (旭中央) **樹** 

兄の又一は鴻上商店を閉じ、 の捕虜生活など命の危険と常に隣合わせでした。 業後は経木組合に勤務、出兵中にアッツ島玉砕、 を買い入れていました。野付牛中学 業は雑貨店を営み、 昭和二十三年に復員した時、両親は既に他界しており、 明治後期、愛媛県から渡ってきた篤次・イクの次男と 大正十年に留辺蘂で父・義雄は生まれました。 留辺蘂・秋田・仁頃の農家から薄荷 時代のニーズに合った企業 (現・北斗高校) 棒太で 家 卒

継ぐべく東京から帰ってきました。薪風呂、薪ストーブ の借家生活は妻にとって初体験でしたが、よく耐えて支 の九十七年間の感謝の人生に幕を閉じました。 工に社名を変え、環境の変化に対応した会社経営を行う に入り、昭和四十八年のオイルショックの年に北海道木 方、多くの地域社会活動を楽しみ、平成二十九年、 父はその一つの木工加工会社である北海道桶樽材工業 私は三十七年前に妻と当時一歳の長男を連れ、家業を そ

> 令和四年度役員 世 話人

うしゃ)を見る度に父の姿を想い出されます。ありがと

頼まれた看板の字(石北峠、

水芭蕉大群落地・焼肉ぎゅ

故・鑓水さんから

書を残してくれました。中でも晩年、

世話人 소 総 住 代 職 佐々木勝太郎(豊金) 戸田健司 米田憲人 木幡和清 (大冨) (旭中央)

> 世話人 佐川和則 (秋田) (旭南)

渋谷恒壱 工藤良二

(宮下)

仝(監査)尾関昭夫 仝(監査)荒木正憲 (北見市) (旭一区)

仝

井上勝昭

(旭三区) (北見市)

を起こしておりました。

しています、いつか皆さんに還元出来るように。 住 職

目を集めています。私も今年からオンライン等で勉強 悲しみを抱えた人に寄り添う事を目的としたケアで注

でしょうか?「喪失に伴う悲嘆 と反応」という意味で、様々な グリーフという言葉をご存じ